

性の多様性について一緒に考えよう

性のあり方は多様で豊かなものです。「遠くの誰か」の話ではなく、「身近な友達」や「自分自身」の話であるという意識で学習に参加し、性の多様性への理解を深めていきましょう。

※このワークに取り組む際、答えに困った場合は無理に記入しなくても構いません。

ワーク 1

性の多様性を理解する上で知っておきたい言葉があります。

次の表のそれぞれの説明に当てはまる言葉を下の枠内から選んで番号を()へ記入しましょう。

(ア)	出生時の身体の性別と性自認が異なる人	()
(イ)	出生時の身体の性別と性自認が一致する人	()
(ウ)	女性同性愛者	()
(エ)	男性同性愛者	()
(オ)	両性愛者	()
(カ)	性的指向や性自認について分からない・決めない人	()
(キ)	性的指向と性自認など、性的特性を表す用語の総称	()
(ク)	LGBTQでは無いけれどLGBTQの活動を支持する支援者	()

- ① ゲイ (Gay)
- ② レズビアン (Lesbian)
- ③ バイセクシュアル (Bisexual)
- ④ トランスジェンダー (Transgender)
- ⑤ クエスチョニング (Questioning)
- ⑥ シスジェンダー (Cisgender)
- ⑦ アライ (ALLY)
- ⑧ ソジ (SOGI, SOGIE)
- ⑨ ヘテロセクシュアル (Heterosexual)

※LGBTQ … Lesbian (レズビアン)、Gay (ゲイ)、Bisexual (バイセクシュアル)、Transgender (トランスジェンダー)、QueerやQuestioning (クイアやクエスチョニング) の頭文字をとった言葉。広義で性的マイノリティの当事者を表す。

ワーク 2

その人自身の性のあり方のことを「セクシュアリティ」といいます。セクシュアリティは、人間一人ひとりの人格に不可欠な要素の集まりです。その要素には、「生物学的な性」「性的指向」「性自認」「表現する性」の4つがあります。セクシュアリティは多様で、明確に分けることができないものです。「ゲイ」や「レズビアン」といった言葉はセクシュアリティの表現のひとつです。

次のワークを通して、SOGI (性的指向と性自認) についての理解を深めましょう。

(1) SOGI (ソジ) とは Sexual Orientation (性的指向) & Gender Identity (性自認) の略で、「性的指向と性自認」を表す言葉です。言葉の意味について調べ、自分の言葉で書いてみましょう。

Sexual Orientation (性的指向)	
Gender Identity (性自認)	

(2) 自分のセクシュアリティ(性のあり方)について、頭の中で考えてみましょう。 ※記入は不要です。

(3) LGBTQは、「LGBTQ+」とも表されます。この「+(プラス)」とは何か調べてみましょう。

(4) 「性のあり方はグラデーション」といわれます。どういう意味か調べてみましょう。

ワーク 3

次のやりとりを通して、どのようなことを意識すれば良いか考えましょう。



「じんけん自己診断～こんなときどうする?～」リーフレット(法務省人権擁護局・全国人権擁護委員会連合会)より

(1) このような相談をされたら、あなたならどうしますか。あなたの考えと近いものを選択肢から選びましょう。(選択肢にない場合は、自分で考えて記入しても構いません。)

選択肢:

(2) 相談された時、あなたは「どのような気持ち」になりますか。

(3) 相手は「どのような気持ち」で相談したと思いますか。

また、相談を受けた時に気をつけなければならないことは何かを考えてみましょう。

気をつけないといけないこと:

次のワークを通して、世界における日本の位置付けや日本における法整備について調べてみましょう。

(インターネットで最新の情報を調べてみましょう。)



参照：認定特定非営利活動法人
虹色ダイバーシティ
(2024年6月時点)より
<https://nijibridge.jp/>

引用元URL:<https://database.ilqa.org/en>

--

今日の学習を通して性の多様性についてあなたが考えたこと、できることは何かを書いてみましょう。



解説 性の多様性について一緒に考えよう

1 ねらい

性的マイノリティについて理解する姿勢は社会全体として浸透し、生徒にも文化として馴染みつつある。一方で、内容のデリケートさからこのテーマそのものを忌避し、結果として具体的な取組につながりにくく、理解がなかなか進んでいない現状もある。「東京レインボープライド」のウェブサイトや企画イベントの様子などから、決してネガティブなものではなく、非常にポップで明るいものであると考える。

この授業を通して少しでも抵抗感を減らし、性的マイノリティに対する理解が進むことをめざす。また、このテーマにおける大きな課題の1つに性的マイノリティに関わる教育が進んでいないことが挙げられる。性的マイノリティに関する内容は非常に流動的であり、しばしば教育現場での柔軟な対応が求められる。この授業を通して教員も一層の理解を図りたい。そして、指導にあたり、人権を意識した教員の言動の見直し、学校生活における男女区分の再点検、違いを認め合う集団づくり、人権教育推進体制、相談・サポート体制の整備など、学校組織全体での取組が必要であることも理解されたい。

2 進め方

展開例（50分）

学習活動	指導上の留意点
1 ワーク1（7分） 性の多様性についての言葉の説明を記号で選び、答える。	・基礎的な事項を確認する。
2 ワーク2（15分） ①SOGIについて確認する。 ②自身のセクシュアリティを確認する。 ③④LGBTQ以外の性的マイノリティについて調べ、性の多様性を理解する。	・まず、性的指向（SO）や性自認（GI）等について調べさせ、その意味を確認させる。 ・（1）で調べたことをもとに、自身について考えさせることで当事者意識を醸成したい。
3 ワーク3（10分） ①自分の考えと近いものを選び記入する。 ②③具体的な受け答えや、相談する側、される側の気持ちについて考え、記入する。 ④「アウティング」について調べ、気をつけなければいけないことを確認する。	・このワークを通して、さらに自分事としてとらえさせたい。 ・「アウティング」については、十分に注意する必要があることを丁寧に伝え、確認する。
4 ワーク4（13分） ①同性婚について世界の状況を調べ、理解を深める。 ②世界と日本の現状を比較し、同性間の関係について理解を深める。	・日本のみならず、世界の状況を調べさせることにより、今後、自分がこの課題に向き合う姿勢を考えさせる。
5 ワーク5（5分） 性の多様性について学んだこと、考えたこと、そして自分にできることを整理する。	・理解を深めたことによって、性の多様性が尊重され、誰もが自分らしく生きられる社会において、自分ができることをまとめさせたい。

3 解説

ワーク1について

解答

(ア)	出生時の身体の性別と性自認が異なる人	(④)
(イ)	出生時の身体の性別と性自認が一致する人	(⑥)
(ウ)	女性同性愛者	(②)
(エ)	男性同性愛者	(①)
(オ)	両性愛者	(③)
(カ)	性的指向や性自認について分からない・決めない人	(⑤)
(キ)	性的指向と性自認など、性的特性を表す用語の総称	(⑧)
(ク)	LGBTQでは無いけれどLGBTQの活動を支持する支援者	(⑦)

*詳細は<用語集>を参照

LGBTQという用語はワークに記載したような頭文字を取っただけの単語として使われる場合もあるが、性的マイノリティの総称としてもしばしば用いられる。本項では「LGBTQ+」(+を付加し「多様なセクシュアリティのあり方」を表している)も含めて後者として用いることとする。

ワーク2について

(1) 解答例

Sexual Orientation (性的指向)	「好きになる性」 どんな性別の人を好きになるか
Gender Identity (性自認)	「じぶんの性」、「こころの性」 自分がどのような性別だと思うかという内なる感じ方

生まれた時に確定する生物学的な性(からだの性)も重要である。トランスジェンダーは「からだの性」「こころの性」のギャップによるものである。また、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアルは「こころの性」「好きになる性」のギャップによるものである。SOGIはExpression(性表現)を含めてSOGIE(ソジエ)と表すこともある。性表現は服装やしぐさ、言葉遣いなど、どのように自分を表現するかということで、必ずしも生物学的な性、性的指向、性自認などと連動しているわけではない。

(2) 自身について考えることで当事者意識の醸成を図るが、記入はもちろん「決定すること」も含め、強要せず、考えるにとどめる。

(3) (4) パンセクシュアル、アセクシュアル、デミセクシュアルなどLGBTQ以外にも性的マイノリティは多岐にわたっており、また刻一刻と変化して増え続けており、その多様性は増している。また、実際にはカテゴライズできるものでなく、その多様性はしばしばグラデーションに例えられる。大切なのは一人ひとりの顔や性格が違いうように性は人により様々で、「男性」「女性」とははっきりと分けられるものではないということである。

ワーク3について

「カミングアウト」をする心理状況や「アウティング」の危険性などを学ぶ上で、当事者意識をもたせるよう働きかけることが非常に重要である。



「じんけん自己診断～こんなときどうする?～」リーフレット(法務省人権擁護局・全国人権擁護委員会連合会)より

【重要なポイント】

○受け答え

カミングアウトを受けたときには、そのことを本人の了解を得ないで他の人に漏らすことのないようにする。また、カミングアウトはとても勇気のいる行為であるため、生徒からカミングアウトされたときは「よく話してくれたね、ありがとう。」と伝えて欲しい。カミングアウトをされてどのように答えてよいかわからない場合は、気持ちを受け止めたことを示すために、黙ってうなづくなどが考えられる。

○注意事項：絶対にしてはいけないこと「アウトティング(outing)」

本人の同意なく、他人の性的指向や性自認を公にすること(アウトティング)は、プライバシーを侵害する行為であり、絶対にしてはならない。カミングアウトされた人が受け止めきれず、どうしたらよいのかわからずに苦しむ場合もある。その結果、友人に相談し、悪気がなくアウトティングにつながる恐れもある。対応で困ったときには、具体的内容を話さずに周りの信頼できる大人や相談機関に相談するように促す。

ワーク4について

ここではインターネットを活用し、世界の状況と日本の現状を比較し、理解を深めることを目的とする。

現在、G7のうちLGBTに対する同性婚や婚姻と同等の法的効果をもつパートナーシップ制度を法的に認めていないのは日本だけである(2024年6月現在)。一方で、「同性間の関係に関する世界地図」の中には、「同性間の関係を犯罪とみなす」国もある。日本の地方自治体では、「パートナーシップ証明書」を発行するところが増えてきているが法的拘束力はない。

性的マイノリティに関する人権課題は山積している状況である。学校における差別やいじめ、就職・昇進などへの影響も指摘されているが、「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」が制定され、性的マイノリティへの関心・課題意識は広まりつつある。

世界の状況や求められる意識、日本における法整備など、現在の状況や社会を俯瞰しながら、なおかつ当事者意識をもって、この人権課題に取り組むことを促したい。

<用語集>

用語	意味
アウトティング(Outing)	第三者が本人の同意なく性的指向や性自認などを暴露すること。
アセクシュアル(Asexual)	他者に対して性愛の感情を抱かない人。
アライ(Ally)	LGBTのことを理解し、応援する人のこと。
エックスジェンダー(X-gender)	性自認が男性でも女性でもない人。男女の間である、どちらでもない、どちらでもある等、様々な人がいる。
エルジービーティー(LGBT)	Lesbian(レズビアン)、Gay(ゲイ)、Bisexual(バイセクシュアル)、Transgender(トランスジェンダー)の頭文字をとった言葉。 LGBTにQuestioning(クエスチョニング)又はQueer(クィア)の頭文字を加えた「LGBTQ」や、多様なセクシュアリティを表す「LGBTQ+」「LGBTs」という言葉もあります。
カミングアウト(Coming out)	自らのセクシュアリティを自覚し、他者にそれを開示すること。
クィア(Queer)	「奇妙な、独特の」という意味の言葉。差別的に使われていましたが、性的マイノリティの方々がそれを逆手にとって肯定的に使い始めたことで、現在では性的マイノリティの総称の1つとなっています。
クエスチョニング(Questioning)	セクシュアリティを決められない、または、決めていない人。

ゲイ(Gay)	男性の同性愛者。
シスジェンダー (Cisgender)	出生時に割り当てられた性別と性自認が同じ人。
性分化疾患 (DSDs: Disorders of Sex Development/Differences of Sex Development)	生物学上の性発達が非典型な場合を指し、性的指向や性自認などの悩みとは異なる。インターセックス(Intersex)と呼ぶこともある。
ソジ/ソギ(SOGI)	性的指向(Sexual Orientation)と性自認(Gender Identity)の頭文字をとった総称。 SOGIは、2006(平成18)年のジョグジャカルタ宣言以降、国連の諸機関で広く用いられており全ての人に関わる、LGBTよりも広い概念。
トランスジェンダー (Transgender)	出生時に割り当てられた性別と性自認に違和感がある人、その性別とは違う性別で生きる人、生きたい人。
トランス女性 (Trans-woman)	出生時に割り当てられた性別が男性で性自認が女性の人。エムティーエフ(MtF、Male to Female)ともいう。
トランス男性 (Trans-man)	出生時に割り当てられた性別が女性で性自認が男性の人。エフティーエム(FtM、Female to Male)ともいう。
バイセクシュアル (Bisexual)	両性愛者。同性が好きになることも、異性が好きになることもある人。
パンセクシュアル (Pansexual)	相手の性別に関係なく恋愛感情を抱く人。
ヘテロセクシュアル (Heterosexual)	異性愛者(性自認が女性で男性を好きになる人、性自認が男性で女性を好きになる人)。
ホモセクシュアル (Homosexual)	同性愛者。
レインボーフラッグ	LGBTの尊厳と社会運動の象徴。 性の多様性を尊重する姿勢を表現するシンボルとして「6色の虹(赤、橙、黄、緑、青、紫)」がよく用いられる。
レズビアン(Lesbian)	女性の同性愛者。

職員向け性的マイノリティサポートブック～自分らしく生き、笑顔あふれる共生社会をめざして～(神奈川県)より

※人によって異なる使い方をしている場合があります。

<引用文献等>

- ・「じんけん自己診断～こんなときどうする?～」リーフレット 法務省人権擁護局・全国人権擁護委員会連合会 <https://www.moj.go.jp/JINKEN/SHINDAN/>
- ・「職員向け性的マイノリティサポートブック～自分らしく生き、笑顔あふれる共生社会をめざして～」神奈川県 令和5年3月

<参考資料>

- ・東京レインボープライド ウェブサイト <https://tokyorainbowpride.org/>
- ・「性の多様性について考えてみよう～性的指向と性自認～」東京都北区ウェブサイト <https://www.city.kita.tokyo.jp/tayosei/lgbtleaflet.html>
- ・「世界の同性婚」公益財団法人MARRIAGE FOR ALL JAPAN-結婚の自由をすべての人にウェブサイト <https://www.marriageforall.jp/marriage-equality/world/>
- ・「同性間の関係に関する世界地図」(2024年6月時点) 認定NPO法人 虹色ダイバーシティウェブサイト <https://nijibridge.jp/>